

今後の調査検討の進め方について

令和3年10月
事務局

我が国の携帯電話用周波数の割当に係る現状

- 令和2年3月から超低遅延・超高速・多数同時接続を実現する第5世代移動通信システム（5G）の商用サービスが開始されるなど、移動通信システムは、我が国の国民生活や社会経済活動に重要な基盤となっている。今後、飛躍的に拡大する電波利用ニーズなどに対応するため、電波の有効利用が一層求められている。
- 我が国では令和元年に電波法を改正し、審査項目の一つとして、電波の経済的価値を踏まえて申し出た金額を審査し、周波数割当てを行う者を決定する比較審査方式（特定基地局開設料制度）を導入したところであり、令和3年4月に5G用として1.7GHz帯（東名阪以外）の割当てにおいて初めて適用された。
- 一方、諸外国では比較審査方式の他に、電波の経済的価値を踏まえた入札額により周波数の割当てを行う者を決定するオークション方式も導入している国もある。5G等における周波数の割当てに関し、諸外国の動向も踏まえつつ、引き続き電波の公平かつ能率的な利用の促進に取り組んでいく必要がある。

検討会での主な検討内容

- 1 我が国の携帯電話用周波数割当方式の検証
特定基地局開設料制度 等
- 2 諸外国の携帯電話用周波数割当方式の調査・分析
 - (1) 諸外国の周波数割当方式の調査・分析
 - (2) オークション方式等のメリットの整理
 - (3) オークション方式等のデメリットへの対応策の整理
- 3 1 及び 2 を受け、
諸外国の携帯電話用周波数の割当方式のメリット等を踏まえた、我が国の新たな携帯電話用周波数の割当方式の検討
- 4 その他

新たな携帯電話用周波数の割当方式に関する検討会 検討スケジュール

2021年 10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
第1次検討						第2次検討			
第1回 ● 概況 (国内外の 携帯電話用 周波数割当 等)	第2回 ● ヒアリング① (有識者・事業者等)	第3回 ● ヒアリング② (有識者等) メリット・ デメリットへの 対応策の 整理 ①	第4回 ● メリット・ デメリットへの 対応策の 整理 ②	第5回 ● 1次 とりまとめ (案)	第6回 ● 1次 とりまとめ (今後の我が国の 携帯電話用 周波数割当方式 の見直しに向けた 検討課題の整理)	第7回 ● ヒアリング ③ (事業者等)	第8回 ● 対応方針 の検討	第9回 ● 2次 とりまとめ (案)	第10回 ● 2次 とりまとめ
						← (パブコメ) →			

I. 我が国の携帯電話用周波数の割当方式の検証をどのように進めるか。

II. 諸外国の携帯電話用周波数の割当方式をどのように評価するか。

1. オークション方式のデメリットとの指摘がある事項及びその対応策について

(例1) 割当て周波数の集中防止

- ・ 周波数キャップの採用

米国（2020年7月）、英国（2018年・2021年）、フランス（2020年9月）、韓国（2018年6月）

(例2) 新規参入の促進

- ・ 新規参入事業者専用のオークション対象周波数帯を設定

カナダ（2019年・2021年）

- ・ 新規参入事業者に対してのみ、オークション入札参加要件を軽減

ドイツ（2019年）

等

2. オークション方式のメリットとの指摘がある事項（電波の有効利用の促進等）について

III. 今後、増大する5G等の周波数ニーズを踏まえ、我が国の新たな携帯電話用周波数の割当方式はどうあるべきか、また、どのように検討していくか。